

# 令和6年度 宍粟市 認知症地域支援推進員活動報告

## 認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員： 2名
- 2 認知症地域支援推進員の役割

①地域住民への認知症の正しい理解の啓発

認知症に関する講演会や講座の開催、市の取り組みの周知  
認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座の開催支援、認知症キャラバン・メイト連絡会の開催  
チームオレンジの支援

②認知症ケアの質の向上

専門職研修の企画、調整

③多職種連絡会の企画、調整

認知症施策検討会

④認知症の人やその家族への支援

認知症の人やその家族に対する相談支援、家族のつどいの開催  
オレンジカフェ（認知症カフェ）の運営支援、オレンジカフェ連絡会等の開催  
認知症初期集中支援事業の推進  
高齢者等見守り支援（SOS登録）や高齢者声かけ訓練・伝達訓練の実施

⑤認知症ケアパスの見直しと普及、リーフレット作製

報告者氏名: 吉田 典子・菅谷 美佳・取越 かおり

# 宍粟市 認知症施策全体図

認知症の人と家族とともに安心して暮らせるまちづくり

## 適時・適切な医療・介護等の提供

相談窓口の普及・啓発  
認知症地域支援推進員の配置  
認知症初期集中支援チーム  
認知症予防健診

## 人材育成

認知症講演会

## 権利擁護

## 予防

脳トレ運動教室  
認知症予防講座  
通いの場認知症予防ミニ講座



## 普及・啓発活動

認知症講座・講演会  
認知症に関する取り組みの周知  
9月アルツハイマー月間での周知

## 認知症施策の推進

認知症施策検討会

## 認知症サポーターの養成・活用

認知症サポーター養成講座  
認知症サポーターステップアップ講座  
認知症キャラバン・メイト連絡会  
チームオレンジの立ち上げ



## 家族支援

オレンジカフェの普及、啓発  
オレンジカフェ連絡会  
家族会立ち上げ

## ひとい外出見守り・SOSネットワーク

GPS機利用支援  
見守りSOSネット・SOS協力機関伝達訓練  
高齢者声かけ訓練

# 標題 認知症マップがつなぐ地域活動と正しい認知症の理解にむけて

## きっかけは

令和5年11月



認知症看護認定看護師

認知症マップって知ってる？  
病院で使ってみたい。  
作ってもらえる人を知りませんか？

地域の人で協力してもらえる人を探してみます！

マップを作ること  
地域の人が認知症を理解する  
ことにつながらないかな



認知症地域支援推進員

啓発活動  
できるかな

**①まずは作って使ってみよう！**

**②協力してもらえる仲間を作ろう！**

令和5年12月

## 認知症マップとは

マップは筒上のカラフルにデザインされたニット製品で外側・内側に様々な飾りが縫い付けられています。その飾りをさわる（いじる）ことによって安心感が得られ、認知症の人の落ち着かない手を穏やかに温かく保ちます。



# 標題 認知症マップがつなぐ地域活動と正しい認知症の理解にむけて

## ③ 地域の人や専門職にマップを知ってもらおう

**講演会の開催** 令和6年7月23日

- マップの役割、効果について
- 認知症の人のケアについて
- 病院でマップを使った効果報告

- 社会福祉協議会職員から他市のマップボランティアグループ代表を紹介してもらい講師を依頼する。
- 当市のローカルTVに取材依頼し講演会の様子を放送。
- アンケートでボランティア活動の希望者を募る。
- ボランティア希望の人には社会福祉協議会が連絡し、活動開始に向けて打合せをする。



今までの認知症講演会に来たことがない人がたくさん参加している・・・

## ④ みんなでマップを作ろう！（ボランティア活動の開始）

令和6年11月～

地域の人が地域の病院や施設や家で使う（認知症の）人のためにマップを作ろう！

自分の都合の良い時間に自分のペースで編みたい。  
グループを組んで集まって活動することは難しい。



家族の介護もしているので定期的に集まるのはしんどい

**家でマップを編みましょう**

社会福祉協議会は 毛糸あつめ  
完成したマップは 地域包括支援センターへ  
認知症地域支援推進員は  
病院や施設などでマップの周知と配布

**みんなで活動開始！**

**すると・・・**

# 標題 認知症マフがつなぐ地域活動と正しい認知症の理解にむけて

**次々と地域に輪が  
広がりました**

編むことは自分の  
認知症予防になるから

編み物で人の役に  
立てるのはうれしい

近所の人たちと集まって編み物しながら  
おしゃべりの会をするわ



毛糸を寄付しようと思ったけど、  
私も編もうかしら・・・

編んでいる人に、もっと認知症のことを知ってほしいなあ

## ⑤いろいろな人にマフを使ってもらおう！

病院、ケアマネジャー、デイサービス、訪問看護、ヘルパー、ことばの相談室、認知症家族のつといななどでマフを紹介し、希望者に配布し使ってもらおう。

マフは認知症の人だけでなく  
様々な人とコミュニケーション  
をとることができるもの。

マフを渡すと泣いて喜ばれました。  
病院看護師から

(猫の飾り付きマフ) この子と一緒に  
安心して寝られるわと言われてまし  
た。  
訪問看護師から

手が冷たい人に使いたい。手を温めるのと  
飾りを触ることで指の運動もできる。デイ  
サービスで作ってみようかな。  
デイサービス職員から

## 標題 認知症マフがつなぐ地域活動と正しい認知症の理解にむけて

### ⑥ マフのこれから

- 認知症の啓発  
マフを作っている人、地域の人に認知症についてもっと知ってほしい  
→ 認知症サポーター養成講座の受講
- 講演会や研修会だけでなく様々な角度からの認知症関連イベントの検討

- マフボランティアへ  
マフを使ってみての効果、利用者の言葉などを伝える  
マフの愛称  
ボランティア活動を地域に周知
- 地域や関係機関の連携強化



### • 最後に・・・

様々な人に声をかけ、たくさんの人に協力していただきました。編み物が苦手な認知症地域支援推進員と看護師の会話から、地域で新たなボランティア活動が始まり、今まで認知症のことにあまり関心のなかった人も巻き込んで、みんなが「その人」のことを考えてマフを作りました。「自分のペースで自分にできること」を推進員が中心になって関係機関と「つなぐ」ことができました。地域の力は素晴らしいと思います。マフボランティアは始まったばかりです。このつながりが正しい認知症の理解につながっていくように活動していきたいです。